福岡県　グループホーム陽だまりの丘
平成　29　年度

平成29年4月28日

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4074100100		
法人名	医療法人成雅会		
事業所名	グループホーム陽だまりの丘		
所在地	福岡県粕屋郡須恵町新原14番地の7		
自己評価作成日	平成29年3月21日	評価結果確定日	平成29年4月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

泰平病院を母体に日頃の体調管理、緊急時、終末期ケアまで協力体制が出来ています。
4ユニット36名の入居者様が、その人らしく役割を持った生活を、毎日楽しく送れるように、スタッフ一同取り組んでいます。風船バレー大会や演芸大会は、入居者様全員が参加されるレクレーションになっています。又、9月にはひだまり祭で、ご家族と一緒にご長寿お祝いを、沢山のボランティアの方の協力を得ながら行っています。秋には敷地内の畑で芋ほりを行ったり、地域の祭り参加や、保育園から発表会の招待を受け毎年参加させていただいています。法人が行っている「認知症カフェ」に参加されたり、入居者と地域の中で季節を感じながら、ゆっくりとした生活が出来る様に努めたいと思っています。

誠愛の理念のもと、4項目の基本方針を定め、入居者が自分のペースで自分らしく生活することを支援している。介護計画の最優先課題を日誌に記載したり、モニタリング結果で計画の見直しが実践され、入居前は警察に保護されるほどの被害妄想がお膳拭きなど役割づくりで落ち着いたり、入居者の言動を受け入れる支援でトイレ回数が減り、会話ができるようになっている。年に2～3名の方の終末期に関わり、医療機関と連携しながら、本人や家族が安心して納得できる看取りを実施し、家族会では遺族の方が看取りについて話をされている。そして、年に1度実施している家族アンケート結果を運営やケアに反映している。陽だまり祭や幼稚園児との交流も継続され、月1回の認知症カフェも入居者に好評で、今後も地域に密着しながら、理念の具現化が期待されるホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**陽だまりの丘　1丁目1番地**

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠愛」を理念として掲げ4ユニットの交流を利用してその方にあった役割を発揮できる環境づくりに取り組んでいる。又地域との関わりにも努力している。	「誠愛」の理念のもとに4項目の基本方針を定め、入居者が自分のペースで自分らしく生活することを支援している。眠りたい時には寝ていただき、言葉で表現できない思いに配慮し、入居者はゆったりと生活されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での食材購入やボランティアの方による演芸会など定期的に行っている。又地域のお祭りや保育発表会には毎年参加している。	ホームの陽だまり祭では地域の老人クラブの発表イベントがあり、保育園児との交流や地蔵祭り等の地元の祭りの参加も継続している。月に1回の認知症カフェは友達に会えると喜こんでいる入居者もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェに参加して話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームご家族代表で2名の方に毎回参加を頂きご意見を頂いている。又年1回実施しているアンケート調査結果を会議の中で報告している。	法人敷地内の小規模多機能事業所と合同で毎回、開催している。家族や自治会代表の他、法人のソーシャルワーカーも参加している。運営推進会議当日に避難訓練を実施し、参加した委員から初期消火について具体的な意見をいただいた。会議録は玄関に掲示している。	運営推進会議の設置目的に鑑み、家族代表だけではなく全家族に日時を案内され、さらなる会議の活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行っている。	地域包括支援センターからの要請を法人のソーシャルワーカーが一括して受け、ホームの見学や入居の相談に応じている。また、町主催の他職種連携会議に参加し、意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在4本柵使用者3名の方から拘束同意を得て実施しているが、ユニット内で解除に向けて検討会議を行っている。法人研修や外部研修に参加し、 毎月の全体会議でも日頃の対応について検討会を行っている。	ホームで研修を実施し、職員は身体拘束の具体的な行為を理解している。家族に了承を得てベッド柵を使用している入居者もあり、毎月検討会を開催し、3ヶ月ごとに同意書を取り直して拘束が常態化しないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会や外部研修に参加して伝達講習をしている。		

福岡県　グループホーム陽だまりの丘　　平成29年4月28日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、伝達講習にてホーム内勉強会を開催してスタッフ理解を深めている。	県の主催する権利擁護の講習会に参加し、伝達講習を行っている。現在、1名の入居者が成年後見制度を活用されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時などその都度相談員から説明、 同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施し、その結果を分析し、家族会や運営推進会議で報告し、又スタッフ教育に取り入れている。	年に1度、介護・接遇・設備・環境について家族アンケートを実施し、把握した家族の意向や思いを運営やケアに反映している。行事と同日に開催している年2回の家族会は、多くの家族の参加があり、家族同士の交流の場になっている。県外の家族には電話で報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議などで意見や提案を確認して検討、改善を行っている。	各ユニット毎の会議や管理者会議、全員が参加する全体会議がそれぞれ、毎月１回開催され、意見や提案を話し合っている。職員から、汚物室の明かりの要望やユニットごとに携帯電話を導入する提案が出され、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や個人面接を行いスタッフの状況を把握している。又体調にあった勤務体制にも努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や男女問わず、仕事に対するやる気を大切にしている。働きやすい環境づくり、能力発揮できるようにしている。	ホーム開設当初から就労している職員も数名あり、離職が少ない。60歳定年制だが、65歳まで更新でき、現在72歳の職員が在職している。管理者が受講者を選んで外部研修の参加を促している。働きながら、介護福祉士の資格を取得した職員が多数いる。	職員の段階や本人の希望する研修を受講できるように、外部研修の情報収集やそれを活した研修計画の作成などで、新人職員も馴染みやすい職場づくりを期待します。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人での研修会参加を促すと共に全体会議を利用して、日頃の対応など、意見交換を行っている。	法人の研修会や県グループホーム協議会の研修会に参加して、改めて理念や基本方針の目指す人権について全職員で学習している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務遂行レベルを用いている 法人内外の研修参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の研修へ参加し交流を深め質の向上に取り組みしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーなどの情報を利用しながら、ご本人が安心して話しできる環境づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望をしっかりと確認する。いつでも、話ができる関係づくりに努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの要望を伺い、その方に合った対応を検討、対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に合った、生活の場作りを大切にしている。 食事やレクレーションを一緒に楽しむ様にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族との関係を大切にして、ご一緒に過ごす環境づくりに、協力を得られる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りなど参加したり、娘さんと一緒にカラオケや知人との新年会に参加されたりしている。	友人の訪問があったり、家族と自分の誕生日を自宅で祝う入居者がいる。娘さんとカラオケや温泉に出かける方や、工場を経営されていた入居者に従業員だった方が訪問され、懐かしそうに会話をされる場面もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性やレベルを把握しながら入居者同志の関わりの場づくりをユニットに関係なく行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時アセスメントシート活用し、希望、意向を把握している。	アセスメントシートで生活歴や意向、できることを把握し、ケアの中で気付いた点や本人のこだわり等はユニット会議の中で話し合い、言葉にできない場合も入居者の思いを検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーやご本人、家族から情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで、日々の状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット毎の担当者会議を開催し、家族の要望確認し、その人らしい生活プランになる様に計画作成している。	介護計画の最優先課題を日誌に記載し、毎日、心身の状況を記載することで短期目標の達成経過が把握できるように工夫している。ユニット会議でモニタリングの結果を話し合い、介護計画を見直している。入居前は警察に保護されるほどの被害妄想があった元介護職の入居者は、お膳拭きなどの役割づくりでスタッフの一員として過ごすなど、落ち着いた生活を送っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、バイタルチェック表等、個別的に記載し、伝達ノートで情報共有することが出来る様に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院、施設に協力を得ながら、入居者のニーズ対応をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物、地域行事への参加を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院からの訪問診療を受けると共に、症状に応じた医療機関受診も支援している。	入居前からのかかりつけ医や本人が希望する医療機関、協力病院の受診や訪問診療など、医療機関と連携して個々の入居者の状況に対応している。転倒を繰り返す入居者は、薬を減らすことで転倒が減り、家族と話ができるようになり喜ばれている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りや、異常時報告に対して、早目に対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員との連携で、医療機関との情報交換、相談が出来ている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時「看取り」について説明を行い、状態変化にあわせて　、医師と家族と面談を行い、方向性を決めてその支援にチームで取り組んでいる。	年間2,3名の看取りに関わり、振り返りをしている。一時帰宅で家族とのひとときを過ごすことができた入居者もあり、家族から思いもかけない時を過ごせたと感謝されている。状況変化の度に家族と話し合い、医療機関と連携しながら本人や家族が安心して納得できる看取りを支援し、家族会では遺族の方が看取りについて話をされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム内での勉強会を行うと共に、夜間帯や休日は、協力病院、看護師の訪問依頼の連携が出来ている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、避難訓練を年2回行っている。また、運営推進会議で地域の方、法人の参加を頂いている。	日中や夜間想定の避難訓練を、年2回実施している。運営推進会議の当日に訓練を行い、委員から初期消火が誰でもできるように、表示をわかりやすくしたらどうか等の意見が出されている。備蓄の一覧表を作成し、消費期限を把握している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時、誘導時の声掛けは特に気を配っている。大声で呼ばない、出さないように気を配り 手振りなどを使って誘導している。	一人ひとりの心身の状況を把握し、その人に応じた声かけや誘導をして、ストレスの無い生活を心がけている。入居者同士が気の会わないときは、スクリーンで間切りをするなどで工夫している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる方には自己決定をできる場面を作っている。買い物などに同行し自分で選んで頂いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、臥床時間はその人のペースに合わせて対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時は、本人の好みに合わせて対応している。洗面所の鏡を車いす用に低くしたり、ブラシを置いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる範囲で準備や片付けを行っている。(もやしの根切り、炒り子の頭取り、食器拭き、テーブル拭き)メニューも旬の物、季節の果物など、取り入れている。	各ユニット毎にメニューを決め、準備や片付けを手伝う入居者もいる。嚥下や心身の状況に応じてミキサー食や刻み食、栄養補助食品を活用している。ホームの畑で収穫した野菜を取り入れたり、入居者に合わせてゆっくりと食事介助が行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、足りない時は好みの物で捕食して頂いている。飲み込みが悪い方にはミキサーを掛けてトロミを付けて提供している。 毎月会議に管理栄養士が参加し、栄養アセスメントを行ない、助言している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないがご自分で出きる方は見守りして歯磨き、うがい、出来ない方はスポンジやガーゼでケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を作り排泄のパターンを把握するように努め、その方の能力に応じた、毎朝下半身の行為、清拭を行っている。	排泄チェック表を作成し、各自のサインや時間に応じてトイレ誘導をしている。最近入居された方は再三もトイレに行かれるが、「さっき行きましたよ」等の言葉を使わない言動を受け入れる支援で、落ち着かれ回数が減っている。ユニットによっては、場所が確認できるように「便所」と大きく表記し、一人で行けるように配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、食物繊維や捕食食品を使用し水分を多めに取っていただきながら下剤を減らすよう個々に応じた対応をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日と時間は決めているが、本人の希望や状況により入浴して頂いている。 入浴が難しい人は清拭、足浴、手浴、ドライシャンプーなどで対応している。	週2回を目途に入浴を支援しているが、3回入浴する入居者もあり、希望に添って柔軟に対応している。シャワー浴は寒いと入浴を拒んだり億劫がる入居者も、ゆったり入浴を楽しんだり、入浴後は気持ち良い表情でゆったり寛いでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに応じた休息や就寝を心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、声出し確認し誤薬防止に努めている。状態変化時はスタッフ間で報告し対応している。 薬の管理は4ユニット統一して行っている。 薬剤師の管理指導で助言を受けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに応じた役割を持って頂いている。レクレーションや、カラオケ、塗り絵などで気分転換をしていただいている。季節の行事、風船バレー大会、演芸大会などを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	予定を立てて買い物に行ったり、花見やドライブなど定期的に行っている。家族と外出し食事をされたりしている。	年間の行事計画により、ドライブや花見に出かけている。今月の桜の花見に出かけた際には、まだ咲いてなかったので、敷地内でもう1度、お弁当を広げて桜を楽しむ予定である。家族とカラオケや食事を楽しんで来たり、自宅に帰ったり、天気の良い日には敷地内を散歩したり、お茶を飲んで気分転換している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて所持されている。スタッフと買い物に出かけ使われている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温度計を使用して調整している。細目に換気を行う。 季節の花や環境整備をして季節感を取り入れている。	玄関に入ると武者飾りと満開の桜に迎えられ、季節を感じられる。各ユニット毎に雰囲気の違う飾りつけや調度品が置かれている。古いタンスや家具が置かれ、テーブルやソファーが入居者に合わせて配置されている。食事をしながら、おしゃべりしていた入居者は気持ちよく、そのまま眠ってしまうなど、心地よく過ごせる環境を整備している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性やレベルに応じて食卓を大小に分け椅子を配置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力して頂き使い慣れた物や、好みの物を持って来て頂いている。車椅子の方にはひざ掛け、暖かいブーツを使用されている。	居室は、家族が泊まっても充分に対応できるような広さがあり、入口に職員手作りの其々異なる暖簾を掛け、居室の間違いを防いでいる。好みのタンスを置いたり、自宅から椅子やテーブル、仏壇等を持ち込んで、その人らしい部屋に設えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはわかりやすく表示を付けたり、トイレのドアは車椅子が入りやすい様に改修した。		